

ANNUAL REPORT
2004



Contents

会社概要 / 組織	01
株式の状況 / 経営方針	02
経営成績及び財政状態等	03
経営成績	04
業 績	06
事業所 / 連結子会社	09

商号

住友精化株式会社
Sumitomo Seika Chemicals Company Limited

本社

(大阪) 〒541-0041 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
(住友ビル)
TEL:06-6220-8508 FAX:06-6220-8541
(東京) 〒102-0073 東京都千代田区九段北一丁目13番5号
(日本地所第1ビル)
TEL:03-3230-8527 FAX:03-3230-8520

設立

1944(昭和19)年7月20日

主な事業内容

精密化学品、基礎化学品、ポリマー製品、各種ガス製品、
酸素・窒素・水素等のガス発生装置、各種機器

資本金

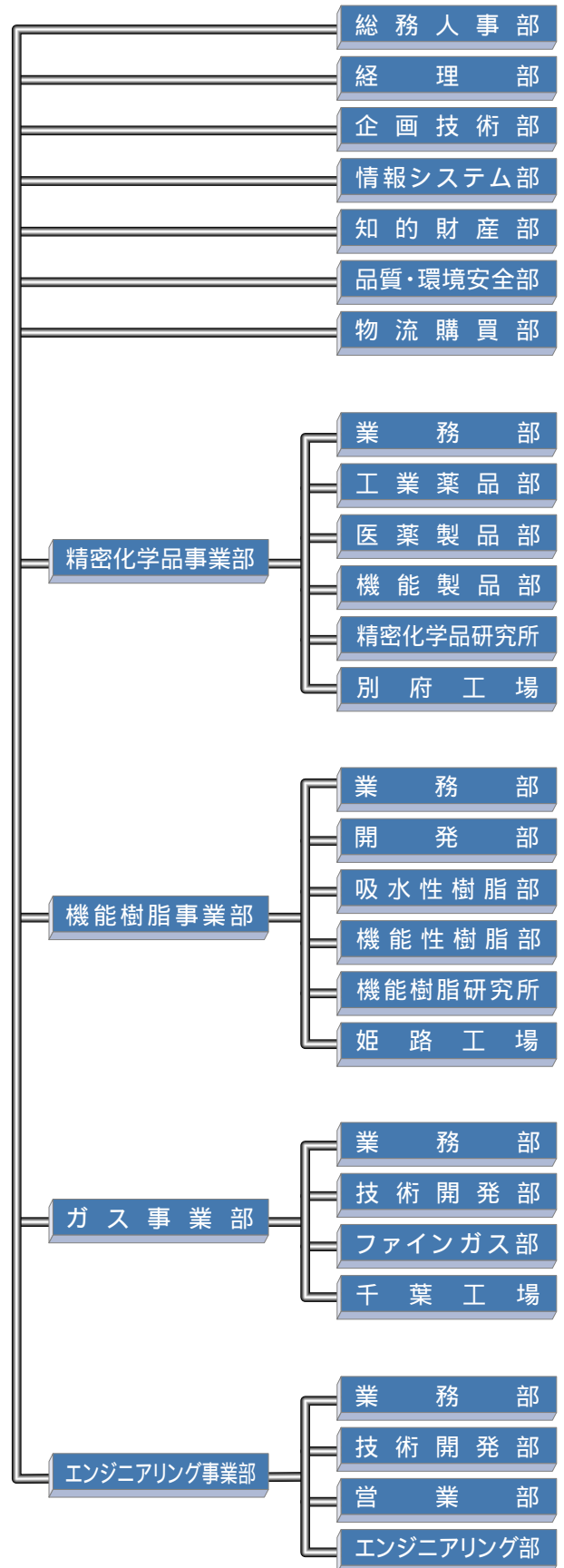
9,698百万円

従業員

676人

役員

社長	園田隆一
常務取締役 (機能樹脂事業部長)	中村守男
常務取締役 (ガス事業部長)	土屋正孝
常務取締役 (経理、情報システム・物流購買担当)	船木凱夫
常務取締役 (エンジニアリング事業部長)	宇野優
取締役 (社外取締役)	香西昭夫
取締役 (精密化学品事業部事業部長)	多田和弘
取締役 (総務人事部長)	本條拓
取締役 (企画技術部長、知的財産・品質・環境安全担当)	小笠原譲二
監査役(常勤)	鳥居孝
監査役	望月泉
監査役 (社外監査役)	二宮博昭
監査役 (社外監査役)	小川文夫



発行済株式総数

69,864千株

株主数

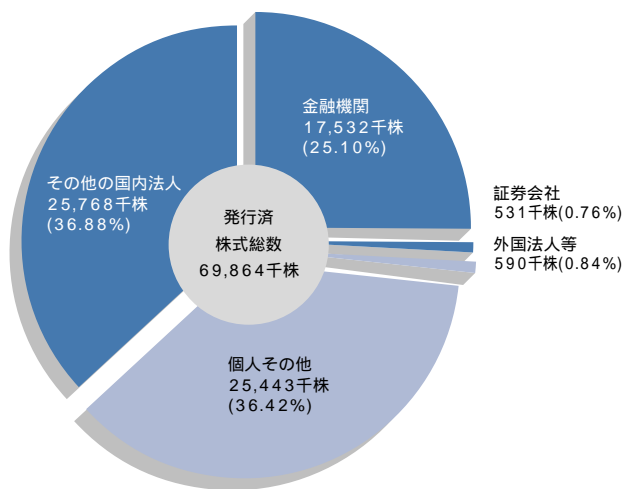
9,111人

大株主

(千株)

住友化学工業株式会社	20,978
株式会社三井住友銀行	2,800
住友信託銀行株式会社	2,417
住友生命保険相互会社	2,251
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,910
三井住友海上火災保険株式会社	1,600
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	1,189

株主構成



経営の基本方針

当社は、「顧客重視」、「社会との共存共栄」を基本方針として、独創的な技術を開発し、特色ある質の高い製品を供給することにより、社会の発展に寄与していく所存であります。また、品質、環境および製品の安全性にも十分配慮した事業活動に努めるとともに、コンプライアンス（法令遵守）の徹底もはかってまいります。

利益配分に関する基本方針

当社は、株主各位に対する利益の還元が重要であると認識したうえで、利益の配分に関しては、業績の向上と経営基盤の強化に取り組みつつ、企業収益に対応した成果の配分を行うことを基本方針としています。内部留保資金については、生産体制の拡充と、コスト競争力の強化、市場ニーズに対応した製品の研究開発に投資してまいります。

中長期的経営戦略

当社は、今後ROE（株主資本利益率）等に代表される指標の向上をはかり、「株主価値」を高めることを目指してまいります。また、選択と集中により経営資源を重点事業に投入することにより事業の競争力を強化してまいります。

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及びその施策の実施状況

- (1) 当社における効率的かつ公正な経営の執行ならびに監視については、取締役会ならびに監査役会がその責務を負っています。毎月、定期的開催される取締役会のほか、全取締役が出席して、経営上の課題を議論する定例の会議を開催し、変化する経営環境への迅速な対応をはかっています。また、内部監査組織による日常的な監査も実施しております。
- (2) 当社は、当社役員・社員の遵守すべき「コンプライアンスの指針」を定めており、コンプライアンス委員会を定期的開催して、その周知徹底をはかっています。
- (3) 当社は、品質マネジメントシステム（ISO9001）の認証を取得しておりますが、さらに、全工場環境マネジメントシステム（ISO14001）活動に取り組んでおります。

対処すべき課題

収益の向上をはかるため、コスト削減をさらに推進するとともに、グローバルな事業展開に努めてまいります。また、新規事業のより一層迅速な展開をはかるとともに、情報技術化社会の進展に適切に対応し、経営資源の集中を行ってまいります。

目標とする経営指標

当社は、連結ROE（株主資本利益率）を、収益性と資本効率の向上により、6%以上にすることを中長期的な目標としております。

経営成績

当期のわが国経済は、長引くデフレのなか、民間設備投資がやや持ち直し、輸出も増加するなど、景気は徐々に明るさが見え始めましたが、個人消費や雇用環境は本格的な改善には至りませんでした。

化学工業におきましては、原燃料価格が高止まりを続けるなど、総じて厳しい経営環境が続きました。

このような情勢のもとで当社グループは、主力製品の拡販等積極的な営業活動に努めるとともに、業務の効率化や諸経費の節減など全社をあげて業績の向上に取り組んでまいりました。

その結果、当期の連結業績につきましては、売上高は40,685百万円(前期比1,897百万円(4.9%)増加)、営業利益は2,617百万円(前期比266百万円(11.3%)増加)、経常利益は2,266百万円(前期比208百万円(10.1%)増加)、当期純利益は1,155百万円(前期比319百万円(38.2%)増加)と、それぞれ増加いたしました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

化学品事業

精密化学品部門では、工業薬品の販売はほぼ前期並みでありましたが、医薬品等中間体をはじめとする精密化学品の出荷が増加いたしました。

機能樹脂部門では、高吸水性樹脂、ポリエチレンオキサイド、水溶性増粘剤等の出荷が順調に推移いたしました。この結果、当事業の売上高は前期に比べ776百万円(2.7%)増加し、30,064百万円となりましたが、営業利益につきましては円高の進展、原燃料価格の上昇などにより、前期に比べ279百万円(12.6%)減少し、1,944百万円となりました。

ガス事業

標準ガス、半導体用ガス等の出荷は順調に推移いたしました。一部製品の販売を整理いたしました。

この結果、当事業の売上高は前期に比べ15百万円(0.3%)の増加にとどまり、6,026百万円となりましたが、営業利益につきましては前期に比べ123百万円(23.0%)増加し、657百万円となりました。

機器・エンジニアリング事業

関連業界の需要回復により、酸素・窒素・水素のガス発生装置等の販売の売が増加いたしました。

この結果、当事業の売上高は前期に比べ、1,104百万円(31.7%)増加し、4,594百万円となりました。また、営業損益につきましては前期に比べ427百万円改善され、12百万円の利益に転じました。

所在地別セグメントの業績は、次のとおりであります。

日本

ガス製品の販売はほぼ前期並みでありましたが、化学品部門における医薬品等中間体、高吸水性樹脂、ポリエチレンオキサイド等の出荷が増加いたしました。また、機器・エンジニアリング部門におきましても、関連業界の需要回復により、酸素・窒素・水素のガス発生装置等の売が増加いたしました。

この結果、売上高は前期に比べ1,827百万円(5.2%)増加し、37,117百万円となりました。また、営業利益につきましても、前期に比べ425百万円(20.8%)増加し、2,471百万円となりました。

アジア

シンガポールにおける高吸水性樹脂の販売は概ね順調に推移いたしました。

この結果、売上高は前期に比べ69百万円(2.0%)増加し、3,567百万円となりましたが、営業利益につきましては、原料価格の高騰により前期に比べ159百万円(52.2%)減少し、145百万円にとどまりました。

財政状態

営業活動によるキャッシュ・フロー

当期の営業活動による資金の増加は4,873百万円(前期比752百万円(18.3%)増加)となりました。この増加の主な原因は、税金等調整前当期純利益が1,885百万円と前期に比べ357百万円増加したことと、たな卸資産の減少額が483百万円と前期に比べ683百万円増加したこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当期の投資活動による資金の減少は857百万円(前期比529百万円(38.2%)減少)となりました。この減少の主な原因は、固定資産の取得による支出が1,110百万円と前期に比べ848百万円減少したこと等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当期における財務活動の結果、使用した資金は3,463百万円(前期比580百万円(20.1%)増加)となりました。これは、長期及び短期借入金3,237百万円の借入(純額)と、当期の特殊要因として社債の償還(償還金額6,037百万円)及び自己株主の取得(244百万円)を実施したこと等によるものであります。

以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は前期に比べ529百万円増加し、1,348百万円となりました。

今後の取り組み

今後の見通しにつきましては、設備投資の回復、輸出の増加が期待されますものの、依然として厳しい雇用情勢や個人消費の低迷も懸念されます。加えて為替相場、米国経済、原燃料価格の先行き等にも不透明感があり、経営環境は予断を許さない状況が続くものと思われま。

このような状況のなかで、当社グループといたしましては、引き続き主力製品の拡販および収益の向上に注力するとともに、コスト削減をさらに推進し、新規事業につきましては業績に寄与すべく迅速な展開をはかる所存でございます。

部門別に申しあげますと、化学品部門につきましては、医薬品中間体および機能性材料の拡販と新製品開発のスピードアップに注力してまいりますとともに、高吸水性樹脂につきましては、品質の優位性を堅持しつつ拡販のための能力増強を具体化してまいります。

ガス部門につきましては、半導体用ガスなど既存製品の拡販を重点テーマとして取り組むとともに、新規事業の早期上市を目指してまいります。

機器・エンジニアリング部門につきましては、酸素発生装置の新規用途開発並びに新仕様開発による拡販と、リフォームおよびメンテナンス事業の強化を推進してまいります。

貸借対照表(連結)

資産の部 (単位：百万円)	科目	金額
	流動資産	22,174
	現金・預金	1,348
	受取手形・売掛金	13,309
	たな卸資産	6,703
	その他	897
	貸倒引当金	83
	固定資産	23,296
	有形固定資産	17,993
	無形固定資産	86
	投資その他の資産	5,216
	資産合計	45,470

負債の部 (単位：百万円)	科目	金額
	流動負債	14,725
	支払手形・買掛金	6,695
	短期借入金	5,622
	その他	2,407
	固定負債	7,418
	長期借入金	4,215
	その他	3,203
	負債合計	22,144
少数株主持分 (単位：百万円)	少数株主持分	191
資本の部 (単位：百万円)	資本金	9,698
	資本剰余金	7,527
	利益剰余金	5,644
	その他有価証券評価差額金	608
	為替換算調整勘定	98
	自己株式	245
	資本合計	23,134
	負債・少数株主持分・資本合計	45,470

損益計算書(連結)

(単位：百万円)

科目	金額
売上高	40,685
売上原価	30,143
販売費及び一般管理費	7,924
営業利益	2,617
営業外収益	108
営業外費用	459
経常利益	2,266
特別利益	197
特別損失	579
税金等調整前当期純利益	1,885
法人税、住民税及び事業税	1,016
法人税等調整額	302
少数株主利益	15
当期純利益	1,155

剰余金計算書(連結)

(単位：百万円)

科目	金額
利益剰余金期首残高	4,886
利益剰余金増加高	1,444
利益剰余金減少高	686
利益剰余金期末残高	5,644

キャッシュ・フロー計算書(連結)

(単位：百万円)

科目	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,873
投資活動によるキャッシュ・フロー	857
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,463
現金及び現金同等物に係る換算差額	23
現金及び現金同等物の増加額	529
現金及び現金同等物の期首残高	819
現金及び現金同等物の期末残高	1,348

貸借対照表 (単独)

資産の部 (単位：百万円)	科目	金額
	流動資産	20,648
	現金・預金	1,031
	受取手形・売掛金	11,205
	たな卸資産	5,895
	その他	2,624
	貸倒引当金	109
	固定資産	22,208
	有形固定資産	15,296
	無形固定資産	83
	投資その他の資産	6,828
	資産合計	42,857

負債の部 (単位：百万円)	科目	金額
	流動負債	12,167
	支払手形・買掛金	5,269
	短期借入金	4,455
	その他	2,443
	固定負債	7,227
	長期借入金	4,041
	その他	3,186
	負債合計	19,395
資本の部 (単位：百万円)	資本金	9,698
	資本剰余金	7,527
	利益剰余金	5,899
	利益準備金	773
	特別償却準備金	53
	別途積立金	2,600
	当期末処分利益	2,472
	株式等評価差額金	582
	自己株式	245
	資本合計	23,462
	負債・資本合計	42,857

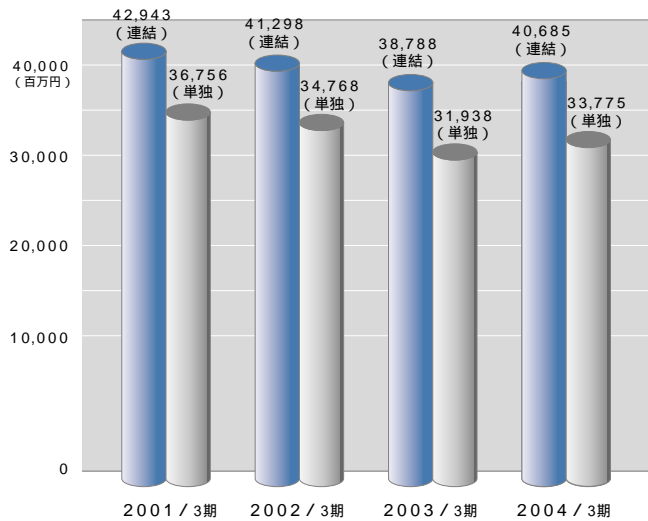
損益計算書 (単独)

(単位：百万円)	科目	金額
	売上高	33,775
	売上原価	24,276
	販売費及び一般管理費	7,171
	営業利益	2,328
	営業外収益	172
	営業外費用	391
	経常利益	2,109
	特別利益	191
	特別損失	577
	税引前当期純利益	1,723
	法人税、住民税及び事業税	1,010
	法人税等調整額	350
	当期純利益	1,064
	前期繰越利益	1,408
	当期末処分利益	2,472

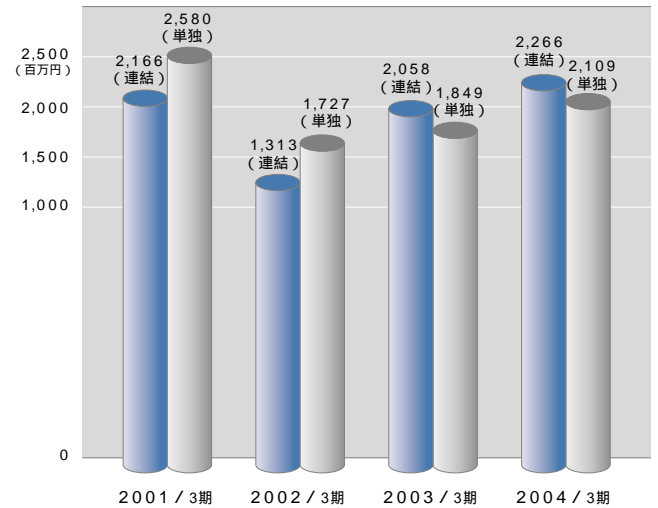
利益処分

(単位：円)		金額
	当期末処分利益	2,472,759,431
	特別償却準備金取崩額	8,410,000
	計	2,481,169,431
	これを次のとおり処分する	
	利益配当金 (1株につき6円)	413,951,406
	取締役賞与金	18,000,000
	監査役賞与金	2,000,000
	次期繰越利益	2,047,218,025

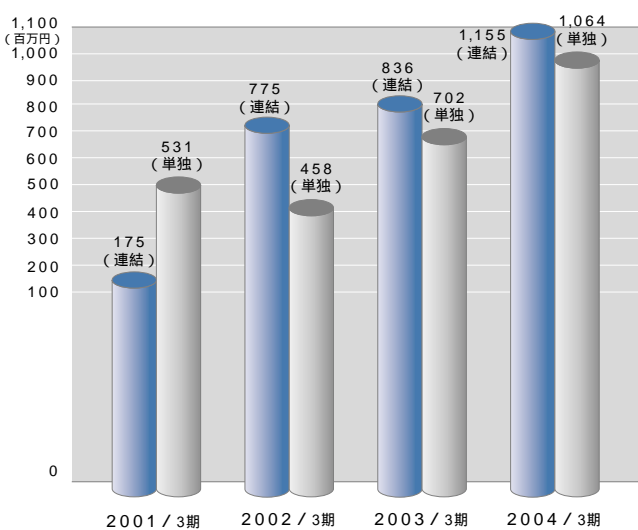
売上高



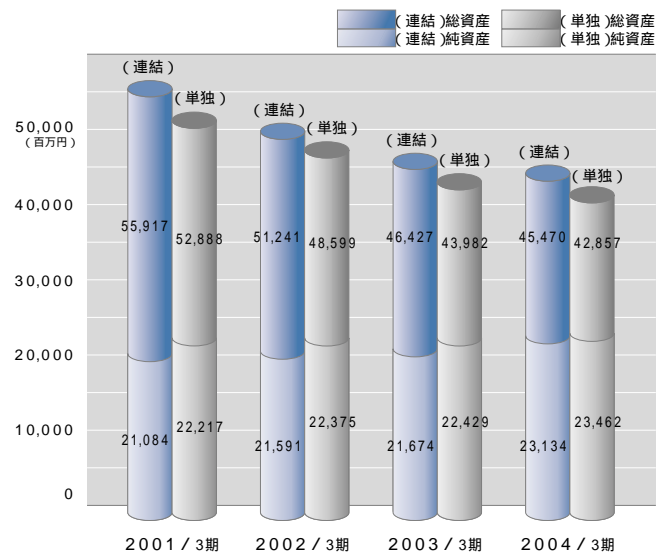
経常利益



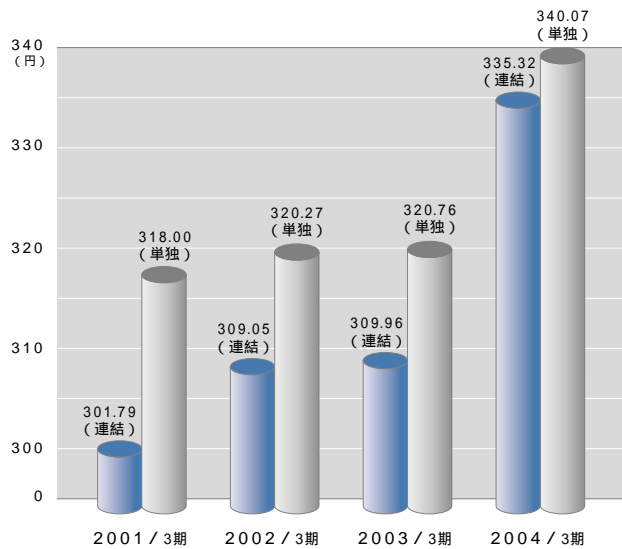
当期純利益



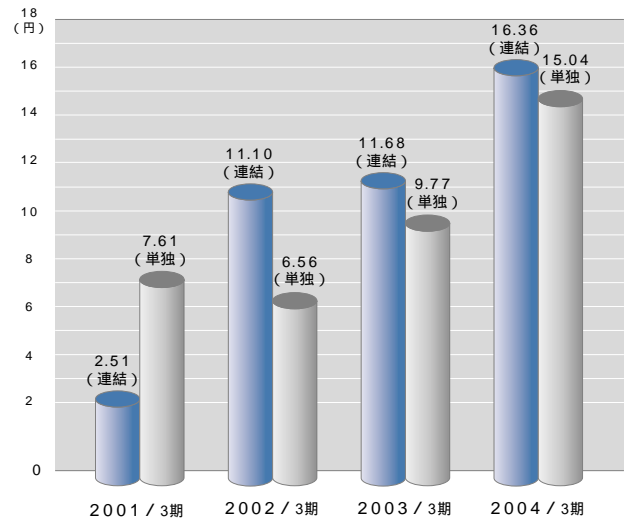
総資産・純資産



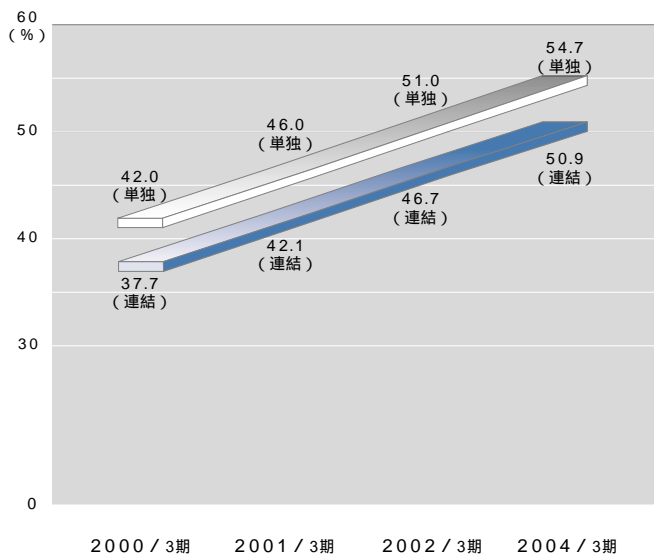
1株当たり純資産額



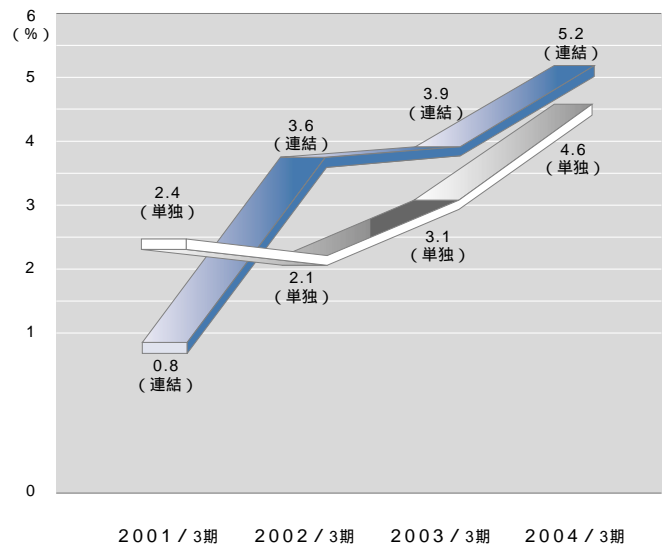
1株当たり当期純利益金額



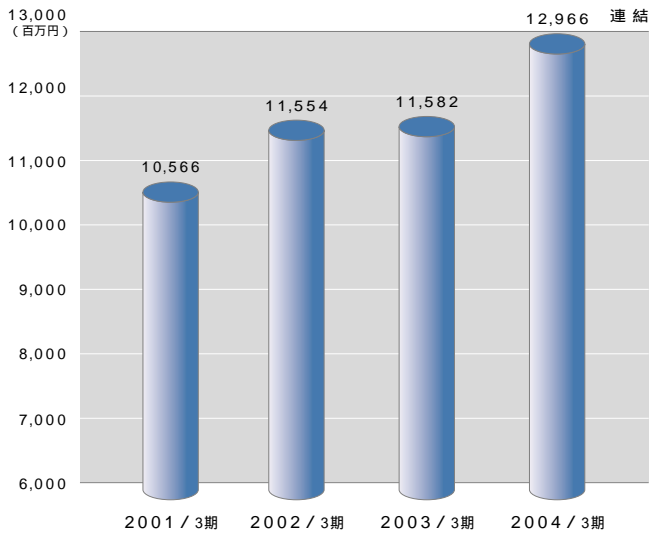
株主資本比率



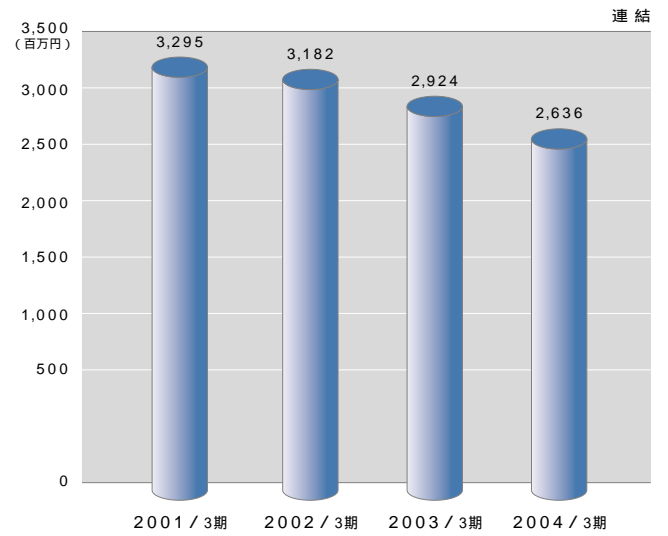
株主資本利益率



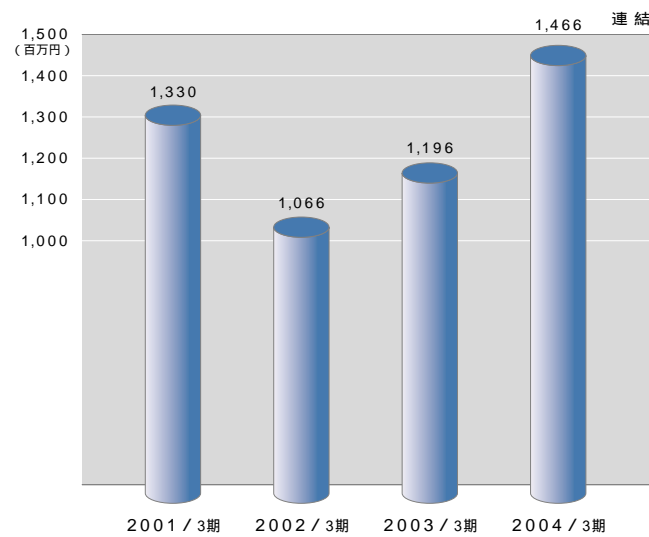
海外売上高 (連結)



減価償却費 (連結)



研究開発費 (連結)



事業所

本社（大阪）

〒541-0041 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
（住友ビル）

TEL.06-6220-8508 FAX.06-6220-8541

本社（東京）

〒102-0073 東京都千代田区九段北1丁目13番5号
（日本地所第1ビル）

TEL.03-3230-8527 FAX.03-3230-8520

研究所

精密化学品研究所（別府工場内）

〒675-0145 兵庫県加古郡播磨町宮西346番地の1
TEL.0794-37-2151 FAX.0794-37-2635

機能樹脂研究所（姫路工場内）

〒672-8076 兵庫県姫路市飾磨区入船町1番地
TEL.0792-35-1305 FAX.0792-35-8883

工場

別府工場

〒675-0145 兵庫県加古郡播磨町宮西346番地の1
TEL.0794-37-2101 FAX.0794-35-2244
面積 250,000㎡ 従業員数 約300名

姫路工場

〒672-8076 兵庫県姫路市飾磨区入船町1番地
TEL.0792-35-1301 FAX.0792-34-7150
面積 270,000㎡ 従業員数 約180名

千葉工場

〒276-0022 千葉県八千代市上高野1384番地の1
TEL.047-483-0115 FAX.047-485-8841
面積 33,000㎡ 従業員数 約70名

駐在員事務所

デュッセルドルフ駐在員事務所

Immermannstr.43
D-40210 Düsseldorf, Germany
TEL.211-479940 FAX.211-9430390

ニューヨーク駐在員事務所

335 Madison Avenue, Suite 830, New York, NY
10017, U.S.A.
TEL.212-572-8245 FAX.212-421-1179

連結子会社

セイカエンジニアリング株式会社

本社 兵庫県加古郡播磨町宮西346番地の1
営業所 姫路、高砂
業務内容 各種プラント、タンク等の製作
出資比率 100%

フタワ化学品株式会社

本社 大阪市中央区北浜四丁目5番33号（住友ビル）
営業所 大阪、東京
業務内容 各種工業薬品、高圧ガス、合成樹脂などの販売
出資比率 100%

Sumitomo Seika Singapore Pte.Ltd.

本社 20 Cecil Street #20-08, The Exchange,
Singapore 049705
業務内容 高吸水性樹脂の製造・販売
出資比率 80%

持分法適用会社

ハリマ興産株式会社

本社 兵庫県加古郡播磨町宮西346番地の1
営業所 姫路
業務内容 施設の運転・管理業、人材派遣業
出資比率 94%（フタワ化学品6%）

 **住友精化株式会社**

総務人事部（広報）

〒541-0041 大阪市中央区北浜4-5-33（住友ビル）

TEL.06-6220-8508 FAX.06-6220-8541

<http://www.sumitomoseika.co.jp/>